資治通鑑　Facebook 解説　　岡將男　　2020-1008

「資治通鑑」第 143 巻 500 年　2020-1008

齊の東昏候の暴虐はやまず、一月豫州刺史の裴叔業は帝が數々大臣を誅するを聞き，心は自ら安んぜず；壽陽城に登り，北に肥水を望み，反乱を起こすかどうか迷う。結局北の魏に救援を求め、壽陽に魏軍が入るが裴叔業は直前に死す。

次に齊は平西將軍の崔慧景を遣わして水軍を將いて壽陽を討たしめるが、首都を逃れた崔慧景は逆に反乱を起こして首都・建康に攻め寄せるも、城を落とす直前に戦功争いで瓦解し、四月皆誅殺される。東昏候は反乱軍に擁立された弟の寶玄を許す。しかし五月、ほとぼりが冷めると寶玄は殺される。

ここで横暴なる東昏候の側近には、さらなる暴虐な側近が集り、その中で宦官の王寶孫は，年十三四，号して「倀（狂）子」といい、尤も寵愛され、大臣を制し，詔敕をつくり，馬に乗りて殿に入り，天子を叱責するに至る。公卿は息を潜めないものはない。

東昏候は豪華な宮殿を建設し、壁に麝香を塗り、金をうがちて蓮華をつくり地に帖り，愛妾の潘妃に其の上を行か令め，曰く：

「此の歩歩は蓮華を生ずる也。」

と。朝廷は悪ガキの少年少女に支配され、もう大人はやってられない事態になる。嬖倖之徒、すなわち悪ガキは自ら「鬼」

と称す。困るという意味の「へいこうする」との言葉は、ここからくる。

王族の端に連なる蕭懿は十月誅殺され、その弟達は逃げ、翌年梁を立てる蕭衍はついに十一月襄陽にて兵を挙げる。朝廷は追討軍を派遣する。

どの時代も、悪知恵の働く悪ガキはいるもので、類は友を呼び、財や地位を餌に人を釣り、好き放題やるものだ。今から 1520 年前の話。

ここまでで日本の古墳時代中期に相当する、資治通鑑 107 巻から 144 巻の 38 巻、原典 39 万 271 文字を完訳終了、77 万 3259 文字。2018 年 8 月 28 日から約 2 年 1 ヶ月余りかかった。さてこれからこれを元にした詳細な年表づくりにとりかかる。

「資治通鑑」第 142 巻 499 年　2020-1006

北魏の皇后馮氏は宦官と通じて、廃せられるが、その此の年皇帝は南の齊に侵攻中に病で亡くなる。其の死後、元皇后は誅せられ、文明皇后以来北魏に君臨した元々燕の支配者一族の馮氏は遂に没落する。倭国との関係も様々あるかもしれない一族だ。

さて南朝の齊では、一族の男子を全て殺した明帝のあと、さらにまだ少年の東昏候が即位し、残虐度を増す。朝廷の政治は六人の宰相が代行するも、内紛は続き、まず吏部郎の謝朓の誅殺、江祏兄弟の誅殺。続いて始安王の蕭遙光の反乱と鎮圧。その鎮圧した功労者の粛清。

東昏候は左右の悪ガキどもと、夕方起き出してあちこち荒らし回り、民は恐ろしくて外出もままならず、失業者相次ぎ、妊婦は腹を割かれたり、老法師は百本の矢で射られたり。

ついにたまりかねた北魏との戦いの功労者、陳顯達は江州で挙兵し、都の建康に迫るも、あえなく破れ誅殺。さて 143 巻ではどうなるのか。

「資治通鑑」第 141 巻 497 年～498 年　2020-1003
齊の高宗明皇帝は猜疑心が強く、先に王族の 19 人の王を殺し、また尚書令を誅殺。一方魏の皇帝も胡の風俗を離さない穆泰らを誅殺。前太子も誅殺。
北魏は万全の体制で南も齊に侵攻するも、漢中の氐帥の楊靈珍らの反乱がおこり、ようやく後顧の憂いを絶つ。
魏はひたひたと南に侵攻し、現在の南陽・信陽・淮南・連雲港のラインまで確保する。
齊の李沖と李彪はまたまた謹慎の十王を誅殺し、太祖、世祖及び世宗の諸子は皆な盡きる。
一方、北魏でも洛陽の留守番の李沖と李彪の確執が激化、「思わざりき、留台のかくに至るや」と嘆く。
齊ではまた会稽の王敬則が反乱、首都建康に迫るも鎮圧。一方北魏が平城から洛陽に南に遷都したことから、北の高車が活発にうごめき始めて、新たな後顧の憂いが生じる。
大虐殺の高宗明皇帝は遂に病死して、北魏は「禮に喪を伐たず」と称して撤退していく。
人はまさに、どの時代もよくもよくも、争いの好きなことよ。

「資治通鑑」第 140 巻 495 年～496 年　2020-1001
平城から洛陽に遷都し、北方の胡族の風習を中華風に改めようとする北魏皇帝は、北に帰りたい豪族の反乱にあい、また皇太子までもが勝手に帰るという事態も起こる。皇太子はむち打たれて庶民に落とされる。
いま中国で様々起こる民族自決と中央集権のせめぎあいは、何時の時代も中国を翻弄し続けている。北魏の場合は胡族出身の皇帝自身が中華化を強制していたが、これは実に珍しい。
中国を統一すると云うことは実に難しい。日本の比ではない。

グーグルマップで探す、朝鮮半島の古墳。2020-0927
今日は栄山江沿いだけで無、昔行った新羅の都・慶州の古墳群、中国と北朝鮮の国境の中国側の集安の高句麗古墳群も見てみた。さらに倭国に関係の深い楽浪郡の楽浪郡治の趾の「楽浪土城」も。
今回栄山江については、岡山大学出身の高田貫太さんの書いた「異形の古墳、朝鮮半島の前方後円墳」を参考にして、調べられた。朝鮮総督府時代の 1917 年測量の古地図を参考に、グーグルマップと照らし合わせて場所を探索。
もう一冊の「前方後円墳の源流、高句麗の前方後円形積石塚」全浩天著、は 1991 年の本で、丁度韓国の松鶴山古墳が前方後円墳かどうかで大いに話題になっていたころ、楯築や四隅突出墓、高松の岩清尾山古墳群、長野の積石塚はすべて高句麗の流れだと主張し、前方後円墳自体が高句麗に源流有りとするものだった。
この頃はまだインターネットが普及する前で、もちろんグーグルマップなんてないからねえ。想像するだけでみることは出来なかった。
いまやってる「資治通鑑」翻訳を今日はお休みして、じっくり探査。栄山江沿いの前方後円墳については、今や日韓両国の長い論争は収束している。すなわち「前方後円墳体制」なるものは、「大和朝廷の支配の象徴」といい、「厳密な序列で大きさや形式を統制していた」というのでは説明できないということ。ある種のファッションであって、様々な文物と同様に「採用された」のではないかと思う。あたかも「グッチのバック」のように。グッチのバックを持っているからって、イタリアに支配されたとはいわないもの

な。

韓国全羅南道の栄山江流域の前方後円墳　2020-0925
Google マップで探してみた。Zoom 会議で教えて貰った、スクリーンショットは手軽だね。
これらのほとんどは、海沿いか河川沿いにあり、百済との交易路、特に４７５年以降百済が南に逃げて扶余や泗比などに都を移したころの古墳。当然この頃は北九州との交流が大きいが、吉備の牛窓の「吉備の海部直」などは船を操って行き来していただろうな。牛窓最後の双ツ塚とか築山古墳の時代かな。

「資治通鑑」第 139 巻 494 年　2020-0925
南朝宋では、鬱林王が廃され、明皇帝が立つ。この皇帝は 18 人もの王子を皆殺しすることになる。南朝では宋時代以来、沢山の弟達の反乱が起こり、内乱も絶えなかったが、明皇帝は激しかった。
一方、北魏はそれなりに安定しており、首都を内モンゴル地域中心の平城あたりから洛陽に遷して、いよいよ本格的中国王朝となる土台ができあがる。北朝は文武共に名君に恵まれ、兄弟間の殺し合いが少なかった。
此の年の北魏皇帝の北方巡回の記録
「●八月癸丑（１１日），魏主は懐朔鎮（綏遠特別区域五原県、現・内モンゴル自治区バヤンノール市五原県）に如く；己未（１７日），武川鎮（綏遠特別区域武川県、現・内モンゴル自治区フフホト市武川県）に如く；辛酉（１９日），撫宜鎮（武川鎮・柔玄鎮の間のどこか）に如く；甲子（２２日），柔玄鎮（正黄旗察哈爾牧地の東南、察哈爾(ちゃはる)興和県、現・内モンゴル自治区ウランチャブ市興和県）に如く；乙丑（２３日），南に還る；辛未（２９日），平城に至る。」

タジキスタンのヴァン遺跡の位置　2020-0925
熊山遺跡と瓜２つと丸谷さんが指摘。
37°　00'16.85" N　72°　22'30.19" E
Google アースで見てみてください。

「資治通鑑」第 138 巻 493 年、2020-0921
北魏の皇帝は群臣の反対を押し切って、平城から洛陽への遷都を敢行する。南朝の齊を討つと称して、長雨の続く中を出征し、群臣は大反対。遂に「ならば遷都するぞ」と群臣を脅して、遷都に成功する。
これより北魏は中華帝国としての道を歩み、漢化政策を遂行する。やがてこの流れが百年後の隋唐帝国に繋がる。

「資治通鑑」第 137 巻 490 年～492 年　2020-0917
この時代は既に北魏が周辺諸国を圧倒し、南朝は斉の時代。長く北魏に君臨したある意味女帝の「文明皇太后」が亡くなり、いよいよ皇帝親政が始まる。文明皇太后は滅びた北燕の馮氏の出身。滅びた方が娘を人質的に差し出したり、奪われたりしても、その後相手の実権を奪ってしまうことはままある。
皇太后は包容力と冷静な判断力、さらに果敢さも持ち合わせて、皇太后になってから、皇帝そのものの暗殺さえ行った。実はこの皇太后の実権を持つ時代、高句麗と倭国の関係が最も先鋭的になるのだが、果た

してどのような関連があるのだろうか。

「資治通鑑」第 124 巻 442 年～446 年　2020-0912
この巻の完訳完成で、高句麗好太王の即位から、古事記の没年干支の雄略天皇の没年の 489 年までの、通史として、中国の歴史を読むことができます。
まさに日本の古墳時代中期の時代背景を知るためには、必須の知りようではないかと思いますね。古墳研究者は是非とも読んでいただきたい。特に後燕、北燕、さらにはシルクロードの北涼などの相互の関係、そして北魏の道教と仏教の動向などが、基礎知識として重要なのではないか。また各国の徴税制度や班田収受制度の成長も、見ることができる。

吉備の主要古墳の編年図　2020-0908
たぶん大学時代の 1975 年位に作成した、吉備の主要古墳の編年図。
なぜ 1975 年とわかるかというと、楯築遺跡の発掘が 1976 年からで、この図では全長 43m となっていて、しかも西暦 300 年位に置いている。楯築遺跡は今は 175 年位かと言われる。
当時は古墳時代は 300 年位からで、今は 250 年前後と云われ出した。
また瀬戸の「玉井丸山古墳全長 150m」と書かれていること。その後消えているが、当時はそう思われていた。辛川小丸山古墳 150m なんてのもある。間壁さんとか西川さんの本や、様々調べて描いたはず。この図は文学部の「考古学特殊講義」のレポートとして講師の甘粕健さんに提出して、無事「優」をいただいたが、当時はまだみんなこんな表現していなかった。甘粕さんは 1977 年から新潟大学に赴任し、その後考古学会会長だったとは、「吉備邪馬台国東遷説」を書くまでは知らなかった。
さてこの図を描き直して、古墳グッズにしようと、「前方後円墳集成・中国四国」を取り出してきた。20000 円もしたんだなあ。その後の修正を色々知りたいところだ。両宮山古墳、金蔵山古墳などなど。
そうですね。僕の勉強始めたときには、弥生墳丘墓という概念が無くて、大学 1 年の授業で「ヒトデみたいな古墳みたいなのが山陰にある」といって説明してくれた、まだ四隅突出墓とは言っていなかった。そのころ「東アジアの古代を考える会」ができて、鈴木武樹なんて人が出てきて、邪馬台国論争が大変なことになって。その頃この雑誌に韓国の「三国史記」の翻訳が載り始め、続いて本が出て、ちゃんと買ってある。
実は考古学は随分進んだけれど、歴史学の方は停滞している感じがあるね。

「資治通鑑」123 巻 437 年　2020-0905
11 月●［魏の西域諸国との国交樹立］魏主は復た散騎侍郎の董琬、高明等を遣わして多く金帛を繼ぎ，西域に使いし，九國を招き撫でしむ。琬等は烏孫に至り，其の王は甚だ喜び，曰く：
「破洛那（フェルガナ)、者舌（漢の康居国、塔什干、タシケント）の二國は皆な臣を稱し貢を魏に致さんと欲し，但だ路の自ら致る無き耳，今使君は宜しく過ぎて之を撫すべし。」
乃ち導譯を遣わして琬を送りて破洛那に詣らしめ，明けて者舌に詣らしむ。旁國は之を聞き，爭いて使者を遣わして琬等に隨いて入貢するは，凡そ十六國。是れより毎歳朝貢して絶えず。
タシケント、出てきましたよ、一杉さん。ここで北魏から高句麗、倭国の交易ルートが成立します

「資治通鑑」第 122 巻 431 年～435 年 2020-0905
北魏は西方の西秦、夏を滅ぼし、北涼を無理に滅ぼさず、和を結んで、次は西の北燕を攻略。ほぼ壊滅状態にし、北燕王は太子の王仁を魏に人質として出すと約束しながら、これを破る。どうしても嫌で、遂に南の宋に入貢し、東隣の高句麗に逃げようかと重臣と相談。重臣は高句麗には義がないから止めとけというのだが。
432 年 8 月北魏は北燕攻める。
平東將軍の賀多羅は帶方（郡）を攻め、撫軍大將軍の永昌王の健は建德（遼寧省朝陽市凌源県）を攻め，驃騎大將軍の樂平王の丕は冀陽（朝陽市）を攻め，皆な之を拔く。九月，乙卯（１４日），魏主は兵を引いて西に還り，營丘、成周、遼東、樂浪、帶方、玄菟六郡の民三萬家を幽州に徙す。
つまり北燕は高句麗の領土を随分蚕食していて、樂浪、帶方、玄菟の今の東北や北朝鮮の黄海よりの部分は支配していたらしい。

「資治通鑑」第 121 巻 428 年~430 年、2020-0905
北魏が徐々に周辺諸国を圧迫し、西秦を属国化、夏ほほぼ壊滅させ、北の柔然を走らせ、南の呉を後退させる。東の北燕のみはかろうじて存続する。この時期はまだ倭国から中国への交易路は確保されていたが、あたかも仁徳天皇の時代で、前方後円墳が巨大化する時期。吉備の造山古墳の造営は既に始まっていただろう。
　こうやって翻訳を進めてみると、造山古墳の被葬者は応神天皇か仁徳天皇ではないかとさえ思えてくる。すると現在の履中天皇陵の最大の候補は、宇治天皇、すなわちウジノワキノイラツコの可能性が。この時代まだ本当は天皇号は成立していないが、この頃中国の北方異民族の鮮卑などでは「天王」という称号が頻繁に出てくる。後の時代おそらく、天王と皇帝をミックスして天皇が作られたのだろう。
直接エフタルではないが、小林説なら、高句麗好太王安は安息、パルティァの流れで、匈奴の休とも関係があり、その後倭国に渡って仁徳になったとする。仁徳と好太王の談徳が似てるし、仁徳が宋に使いしたときの倭王讃は誉めるという意味だから、似ているというのだが、さてさてやや強引な気がするけどね。

資治通鑑翻訳　2020-0823
「資治通鑑」の翻訳も峠を越えたかな。107 巻の 387 年から 144 巻の 501 年まで一応やった。丁度丸二年。原文 390271 文字が 707414 文字に。38 巻中 25 巻は完訳したが、まだ 13 巻は仮訳。全体には 78 万字になる。原稿用紙なら 2000 枚は軽く越える。
邪馬台国論争というが、魏志倭人伝はたった 2000 字で、どう料理しても邪馬台国確定なんて無理。相変わらず日夜里程遠記事を計算してる在野の研究者は多い。
また日本書紀や古事記の記事と合わせて、特に天照とかスサノオという有名人になぞらえる研究も多いが、無駄に近いのではないかな。日本書紀古事記を読んだ後世のかき混ぜ方が半端じゃないし、特に明治以後の政治的意図的書き換えはメチャだ。
今回の翻訳は、最初は悪戦苦闘だった。なんせ、「漢字なら何でも知ってる漢字マニア」は好きじゃないもんな。だが、漢和辞典はすべてネット検索で済ました。原文はネットで探してダウンロード、コピペして検索、中国語の辞書もかなり使った。
ただ現代中国語の簡体字はまだよくわからないから、少しは勉強する必要がある。地名などは戦前昭和 8

年の翻訳を参考にした。簡体字じゃないから、かなりわかる。ただ、地名とはこんなに変化するものだと感じた。
さらに、ありがたいのは Wikipedia で宋書とか晋書を読み込んで作ってくれているマニアがいることだ。基本タダで公開してるが、この翻訳でも書籍化する価値は十分にある。100 部位は刷っとくかなあ。A4 で 600 ページ。いくら、かかるかな。クラウドファンディングでもするかな。

「資治通鑑」第 118 巻 416－419 年 2020-0821
東晋の劉裕は念願の長安を落とすも、徐州に還るころには、北の夏の赫連勃勃に落とされてしまう。南船北馬、南が騎馬民族の北を軍事的に圧倒するのは実に難しい。
この時代、まさに日本列島には騎馬民族の影響が大きくなり、古墳にも馬具が副葬される時代。
+正確には 390 年くらいからどっと馬具は入ってきたのでないかな。高句麗と百済の戦いに倭国が巻き込まれた、というか、倭国自身も交易ルートの確保が必要だったのでしょう。
造山古墳の前の榊山古墳からは、馬型のバックルが出土。

「資治通鑑」第 116 巻 411 年～414 年 2020-0814
413 年は「晉書」安帝の義熙九年、「高句麗・倭国及び西南夷の銅頭大師が安帝に貢物を献ずる。」とある。「宋書倭国伝」の 421 年の倭王・讃の朝貢記事と関連づけるのが一般的だが、本当はどうなのか。小林惠子は、北燕が建国したものの北魏に押されて、遼西・遼東方面に進出せざるをえず、高句麗の好太王安は、高句麗本来の高氏ではなく、燕の慕容氏の支援も得ていたから、おり場が無くなり、南下して倭王・仁徳天皇になったとする。
当時の国際情勢からいえば、小林説は決して荒唐無稽ではない。今回の翻訳の目的は、小林説を検証するだけの中国史の基礎知識を得るためなので、彼女の思考の構造は良く理解できるようになった。
この時期の中国北部では、鮮卑や氐羌、柔然などの北方遊牧騎馬民族が次々國を立てるが、匈奴の劉氏、鮮卑の慕容氏、中華人の馮氏、高句麗の高氏などが様々絡み合って、政略結婚も繰り返し、反主流派になれば極めて簡単に敵国に寝返って亡命政権を作る。
北燕の馮丕は北燕創立者の馮跋の弟だが、後燕→高句麗→北燕→北魏と移動している。最後に北燕を滅ぼすのは、北魏の将軍になっていた馮丕で、その後北魏が高句麗を征服しようとするのを止めている。若い頃亡命してお世話になった高句麗には仁義があったのだろう。
一族と国家と個人的な縁ががからみあって、様々な事件が起こる。

資治通鑑」第 114 巻 405 年～408 年　2020-0806
▲［燕は高句麗を伐つ、皇后を待って攻略失敗］燕王の熙は高句麗を伐つ。戊申（２６日），遼東を攻め城は且に陥ちんとし，熙は將士に命ず：「先に登るを得るなかれ，其の城を剷平（切り平らぐ）するを俟ち，朕は皇后と輦に乘りて而して入らん。」，是に由りて城中は嚴備するを得，卒に克たず而して還る。
城攻めして、まさに落ちそうなのに、皇后が一番乗りしたいから、ちょっと待てと言われて、結局その間に守りを固められて落ちなかった。
この後燕の国王、慕容熙の皇后は符氏で、どうも高句麗に恨みがあったらしい。一国の政治も男女の愛憎が絡むと、たわいもなくねじ曲げられていくのは、今だけのことではない。因みに、この皇帝は、皇后の

亡くなったときは尋常ではなく、群臣だけでなく庶民一般まで「殉死」を命ぜられるのではないかと、恐怖におののく。皇帝の弟の妻は、美人だからと殉死させられている。実際棺は１０個城を出たと書いてある。

「資治通鑑」第 113 巻 403 年～404 年 2020-0731
安皇帝戊元興二年（癸卯 403 年）
【桓玄の王位簒奪と劉裕の動き】
安皇帝戊元興三年（甲辰 404 年）
【劉裕の京口決起】
中国南朝東晋の末期、孫温の乱、桓玄の王位簒奪、劉裕の決起と内乱が続き、淮河のを越えて南から北へ難民が相次いだという。この頃は倭国では応神天皇時代、高句麗の好太王安、いわゆる広開土王との戦いがあり、また北の後燕国は次第に北魏に押されている。また山東半島あたりには南燕国が成立し、倭国への交易ルートもしばしば大混乱を起こしている。

「資治通鑑」113 巻 404 年、2020-0730
劉裕が建康を落として、総理大臣を代えた途端、たった十日で綱紀粛正し、風俗は頓改すてさ。
■［劉穆之は綱紀粛正、旬日にて風俗は頓改す］裕は始め建康に至り，諸の大處分は皆な劉穆之に委ね，倉猝（慌ただしく）にして立ちどころに定まり，允愜（妥当）せざるは無し。裕は遂に托するに腹心を以てし，動止は焉(これ)に咨(はか)る；穆之も亦た節を竭くし誠を盡くし，隱を遣わす所無し。時に晉の政(まつりごと)は寛馳にして，綱紀は立たず，豪族は陵縱（侮り欲しいまま）にして，小民は窮蹙(きゅうしゅく)（窮まり縮まる）し，重ねるに司馬元顯の政令を違舛（間違い）を以てす。桓玄は厘整（正す）せんと欲すると雖も，而して科條は繁密にして，眾（+衆）は之に從うは莫し。穆之は時宜を斟酌し，方に隨って矯正す；裕は身を以て物に范（+範）し，先んじて威禁を以てす；內外の百官は皆な肅然として奉職し，旬日に盈(み)たず，風俗は頓改す。
「草間には當に英雄起つに有るべし」資治通鑑 113 巻４０４年の劉裕の言。
政府がアホでも、世の中の必要とする英雄は草の間から出てくるものさと、東京都医師会長の会見を見て思う。

資治通鑑」第 111 巻 399-400 年 2020-0724
ちょうど高句麗好太王が倭国と激しく戦っている時代、実は北京あたりから満州まで支配していた後燕が北魏に押されて支配領域を狭くしてきた。
慕容宝時代は高句麗との関係がよかったが、宝が蘭干に殺されて、それを滅ぼした慕容盛の時代になると、一転して高句麗との戦いが始まる。
この時代、國と國との戦争は、まだ国民国家が形成されていないから、支配者の個人的関係が最優先される。まあ本当は、どの時代もそうかもしれないが。
今日現在のコロナ禍でも、国全体の利益よりも、政党や政権の都合が優先されるに似ている。
慕容氏や次の北燕の支配者の馮氏の家系から出たかもしれない百済の昆支王が、倭国の雄略天皇に転身したという、小林惠子さんの仮説。これを検証しようと資治通鑑の翻訳をしているわけ。

いわば現代なら、ルノーのゴーンが日産の社長や三菱自動車の社長を兼務したようなもの。ベネッセはマクドナルドの社長を呼んできて、数年やらせたとか。外様とか親藩とか。
抜群に能力があって、口が立てば、その人格はともかく、何処でも重宝され、君主や社長にはなる。だが地元出身ではないから、干されて追放もされる。人間とは、まだまだ精神的には進歩していないものだ。低俗で宇宙人に笑われるよなあ。
「今だけ、金だけ、自分だけ」の人類はもう卒業しようよ。コロナはそんな試練かもな。誰が本当に人間的に素晴らしく暖かい知事や市長か、よおく品定めしてみたいものだ。

資治通鑑 111 巻　2020-0723
■［荊州は大水，平地は三丈、桓玄挙兵］是の歳，荊州は大水，平地は三丈，（7-046p）仲堪は倉廩を竭して以て饑民を賑わす。桓玄は其の虚に乗りて而して之を伐たんと欲し，乃ち兵を發して西上し，亦た
「洛を救わん」
と聲言し，仲堪に書を與えて曰く：
資治通鑑１１１巻３９９年、今の三峡ダムあたりの洪水で、三丈の高さまで水没、それに乗じて桓玄は乱を起こす。仁愛厚き殷仲堪は、庶民の脈を自ら取るくらいで、水害飢饉では倉庫を空にして民衆を救ったが、その弱さのため、桓玄に滅ぼされる。

燕の高句麗王安討伐　2020-0723
▲［燕の高句麗王安討伐］高句麗王の安は燕に事えて禮慢なり；二月，丙申（１５日），燕王の盛は自ら兵三萬を將いて之を襲い，驃騎大將+軍（－國✕）の熙を以て前鋒と為し，新城、南蘇の二城を拔き，境七百餘里を開き，五千餘戸を徙し而して還る。熙は勇は諸將に冠たり，盛は曰く：
「叔父は雄果にして，世祖之風有り，但だ弘略は如らざる耳！」
●初め，魏主の珪は劉頭眷之女を納れて，寵は後庭に冠たり，子嗣を生む。中山に克つに及び，燕主の寶之幼女を獲る。將に皇后に立てんとし，其の國の故事を用い，金人を鑄て以て之を卜す，劉氏は鑄る所成らず，慕容氏は成り，三月，戊午（８日），慕容氏を立てて皇后と為す。
先週の講演に誤り有りだな。４００年に燕国は高句麗に侵入。必ずしも高句麗は安心して南下は出来ていないな。
またここで「黄金人間を鋳る」てのが出てくる。北魏とか燕とかには、そんな風習があったって書いてある。一杉さん。

「資治通鑑」第１０９巻３９７年　2020-0720
「資治通鑑」第１１０巻３９８年
南北朝時代でも一番たくさんの国家が乱立した時代。特に北側では東の燕は３分裂、西の涼も３分裂しｊ真ん中の秦も２つと、それ以外にも英雄乱立した状態。また南の晋も反乱相次ぎ、外交の余裕など無い。丁度この時代は、朝鮮半島では高句麗の好太王安、（広開土王）が応神天皇と新羅を巡り交戦し、「好太王の碑文」に記される頃。高句麗を脅かす燕が急速に弱くなって、高句麗は安心して南の百済や新羅への侵攻ができたというわけだ。また燕国の内乱も、つまるところ朝鮮半島かせ倭国にかけての交易利権を争う戦いだったといえよう。すべての戦争はまず「経済」が原因となっているはず。

「資治通鑑から見る古墳時代」Zoom 講演会　2020-0712
初めての Zoom 講演会を開催、２８人も参加していただき、ありがとうございます。今日が初めての Zoom という方も７人くらいいたかも。みんな人生の転換点で、選択の余地が広かったのかもしれませんね。
正直、講演しながらの参加者管理は慌ただしい。それと何回か通信が不安定になって、びくびく。講演そのものに集中はできなかった。なのでパワポの準備に手間をかけていたので゛、これは正解かも。
参加の皆さんも、通信状態とか、操作とか初体験で大変だったと思いますが、このネットワークは生かしていきたいものです。
ウズベキスタンの一杉さん、札幌の加藤さん、大阪の長緒さん、米子の小椋さん、遠路はるばるご苦労様です。一気に距離がなくなりましたよね。
全員に自己紹介をお願いできませんでしたが、またよろしくお願いします

資治通鑑と古墳時代　2020-0711
資治通鑑の翻訳もついついあれこれやってしまうが、面白い。
さて明日は吉備歴文会として初めて Zoom で講演会を開くことにした。まずは僕が「資治通鑑から見る古墳時代」と称した話をして、そのあと参加者との懇談だ、自宅飲みしていただければいい。
「資治通鑑から見た古墳時代」
７月１１日（土）２０時から２１時
講師　岡將男
１９時半から Zoom 会議室をあけておきます。約１時間の講演ののち、雑談・質問タイム。定員１００名でずか、全然把握していない。
無料なので、希望者は messenger でメールください。
URL は「中国資治通鑑全訳」のページのトップに張ります。
なお本日「資治通鑑」第１０８巻３９２年から３９６年を掲載。後燕の皇太子慕容宝が北魏に敗れ、慕容垂が反撃に出て客死する。北魏と北燕の勢力関係が逆転する「参合陂の戦い」がなかなか面白い。
そして丁度この時期、北燕は北魏との戦いに忙しく、高句麗との戦いに兵力を割く事が出来ず、高句麗は安心して南の新羅や百済に攻め込むことができた。有名な高句麗好太王の碑文に出てくる、倭国との戦いの背景を知ることが出来る。

「資治通鑑」第１０７巻　387 年～391 年 2020-0706
中国南北朝時代でも混乱の極みの時代。一度北半分を統一した符堅の前秦が、淝水の戦いで瓦解して、後燕、西燕、南燕、北魏、西秦、後涼などの国家が乱立していた時代。
実はこの混乱時代に、高句麗好太王が倭国と戦うことになる。好太王は高句麗本来の「高氏」ではなく「安氏」であり、この姓は安息パルティアから来ている可能性がある。また好太王は「談徳」という名前で韓ドラでは「タムドク」として出てくるが、元々後燕の王族の「慕容氏」が高句麗に送り込んだとも言われている。つまり高句麗からみれば客分であった。
小林惠子は、「談徳」は「その後高句麗を追われて、倭国の仁徳天皇になった」と書いているが、どの程

度までその可能性があるのか、誰も論じないので、検証するためにこの巻を急いで翻訳した。
３９１年は倭国の応神天皇が好太王と戦ったかもしれない年号だ。

「資治通鑑」臺 136 巻　484－489 年 2020-0624
●［魏は春夏大旱と齊州刺史韓麒麟の上表］魏は春夏に大旱，代の地は尤も甚し；加えて牛疫を以て，民の餒死者は多し。六月，癸未（２９日），內外之臣に詔して極言して隱す無からしむ。齊州刺史の韓麒麟
は上表して曰く：
「古先の哲王は，儲積九稔（三年耕して一年の食を積み、九年で三年余し、三十年で九年積む。国は九年積まずは不足、六年積まずは急、三年積まずは国に非ず）；
飢饉に備えて３年食料備蓄していないのは「国家ではない」と古代中国では言っている。国家はもしもの時の安全保障のためにある。
この時代、牛窓の吉備海部直の水軍は、宋や斉の海岸まで出かけていってただろう。

「資治通鑑」第 135 巻完訳終了、479 年～483 年 2020-0621
宋の将軍の蕭道政は禅譲の形式を取ってついに皇帝に即位。当然のようにしばらくして禅譲した宋の皇帝は、誅殺される。中国でもどこでも、武力討伐は常に悪とされるが背、自殺に追い込む、詰め腹を切らせるというのは、今のパワハラと違いはしない。
いま自民党内の「禅譲」。野党の政権交代はいわば「武力制圧」なのだが、普通こういう場合、野党は与党内の分裂を計って多数を占めるのをめざすものだ。だがそういう手法や文化をどうも歴史に学んでいないようだ。

「資治通鑑」第 135 巻 2020-0619
太祖高皇帝永明元年（癸亥，四八三年）
■**春，正月**，辛亥（２日），**上**は南郊に祀り，大赦し，改元す。
■詔して邊境の寧晏なるを以て，治民之官に，普(あまね)く田秩を復す。
宋の文帝の元嘉 27 年北虜によりて俸禄を減ず。淮南太守諸葛闡は俸禄を減じて内の百官に比すを求め、諸州の郡県丞尉全て減じる。明帝の時軍旅やまず府庫は空荷なり、内外の百官全て俸禄を断つ。
当たり前の事だが、官吏の俸禄が無ければ、賄賂が横行し、政治は不安定になる。官吏や政治家に仕事をさせようと思ったら、ある程度の所得は保証してやらないといけない。同じく医療やバスの運転手などの社会基盤労働者についても、一定の保証は必要。
さらに今回のコロナでわかるように、国家が税金を取るというのは、いざというときの生活保障のためだ。変換していて、保証、補償、保障の使い分けは難しいなあ。

「資治通鑑」第 135 巻 2020-0618
西暦 480 年の所を翻訳していて驚いた。
■**［囚人の疾病を蒸し殺すを禁止］十一月**，戊寅（１６日），丹陽尹の**王僧虔**は上言す：
「郡縣の獄は相承（相伝）けて湯に上りて（疫病対策で蒸すのが昂じて）囚を殺す有り，名（目）は疾を

救うと為し，實は冤（濡れ衣）暴を行う。豈に死生の大命にして，而して潛かに下邑に制す有らんや！愚かにも謂う囚の病は必ず先ず郡を刺し（病気の囚人の姓名を報告する），職司と醫とは對して共に診驗するを求め，遠縣の家人は視るを省き，然る後に處（処方して）治すべし。」
上は之に從う。
要するに当時も、燻蒸するのが感染症対策にはいいと分っていて、刑務所で蒸していたものが、最後にはそれぞれの牢獄で釜ゆでして殺すようになっていた。それを丹陽尹、すなわち首都近くの重要拠点、まあ神奈川県知事がやめようと皇帝に進言した。やっぱり当時もインフルが蔓延したのかもしれないな。

2020-0613
資治通鑑翻訳と卑弥呼の時代との関係について、パワーポイント講演資料を作成。100 枚ほど。ZOOM で中継できるか、昨日詳細に伊藤昌毅さんの ZOOM で中継の記事を読んで勉強。まずは 15 分ほど録画してみたら、ちゃんち Zoom のファイルに変換されていた。それを you-tube に上げてみた。この調子で、邪馬台国中四国支部の入会開設とか、古代三都物語とか、楯築サロンだとか、パワポはたくさんあるから、作れるね。
https://youtu.be/-yOw2wkgIC0
古墳時代の中国で出てくる「開府儀同三司都督●●大将軍」というような称号の開府とは、いわば幕府を開いて減じ政治権力を取るという意味で、それこそ江戸時代は三国志時代の延長だったということ。卑弥呼や天皇制は基本的に政治的権威だったというわけ。
ただ、インカムがないので、家族の音や猫の鳴き声を拾うかもしれないな。

「資治通鑑」第 134 巻　476 年～478 年 2020-0612
https://image02.seesaawiki.jp/.../shijitug.../eF5LHEyIja.pdf
■４７８年・（倭王武の上表文）「順帝の昇明二年、使を遣わして上表して曰く、『封国は偏遠にして、藩を外に作す。昔より祖禰躬ら甲冑をツラヌき、山川を跋渉し寧処に遑あらず。東は毛人を征すること五十五国、西は衆夷を服すること六十六国、渡りて海北を平ぐること九十五国、王道融泰にして、土を廓き、畿を遐にす。累葉朝宗して歳に愆ず。臣、下愚なりといえども、忝なくも先緒を胤ぎ、統ぶる所を駆率し、天極に帰崇し、道百済を遙て、船舫を装治す。しかるに句麗無道にして、図りて見呑を欲し、辺隷を掠抄し、虔劉して已まず。毎に稽滞を致し、以て良風を失い、路に進むというといえども、あるいは通じあるいは不らず。臣が亡考済、実に寇讐の天路を壅塞するを忿り、控弦百万、義声に感激し、方に大挙せんと欲せしも、奄に父兄を喪い、垂成の功をして一簣を獲ざらしむ。居しく諒闇にあり兵甲を動かさず。これを以て、偃息して未だ捷たざりき。今に至りて、甲を練り兵を治め、父兄の志を申べんと欲す。義士虎賁文武功を効し、白刃前に交わるともまた顧みざる所なり。もし帝徳の覆戴を以て、この彊敵を摧き克く方難を靖んぜば、前功を替えることなけん。窃かに自ら開府儀同三司を仮し、その余は咸 な仮授して以て忠節を勧む』と。詔して武を使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大将軍倭王に除す。」
●４７８年（１３４巻）・1 月沈攸之は郢城を攻め落とせず江陵に逃亡、縊死。戒厳令解除。3 月黄回に帰還。4 月黄回の誅殺。8 月二尚方の廃止。9 月蕭道成に九爵。既に蕭道成の覇権が明確になる。

全国邪馬台国連絡協議会　2020-0612
実は、5 月末から全国邪馬台国連絡協議会の副会長中四国支部長になりました。米子の田中文也さんの後を継ぎます。田中さんは会の創立に深く関わり、徐福伝説の実体化では僕に多大なる影響を及ぼした。
で、田中さんがいらっしゃるから、僕の邪馬台国にも火がついて、昨年も古代三都物語にも大挙して来てくれました。
さて、田中さんがいるから、岡山勢はさぼっていて、僅かに 3 人、全国では 400 人だが中四国は 30 人ちょいなんで、昨年の三都物語を展開して、この際勢力拡大を計りたいと思います！
テーマは「邪馬台国遊園地！」メンドクサイ議論はともかく、日本全国邪馬台国！邪馬台国を楽しもうです。
で、先週末に KAYA の逢澤直子さんと古代史小説家の長緒鬼無里さんと zoom でわいわいガヤガヤ!!
で、入会していただいて、吉備邪馬台国が特殊器台を讃岐、阿波、河内とひろげたように、仲間を繋げたい。
まずは近いうちに zoom 邪馬台国遊園地をやりましょう。facebook ページも作るかな。また皆さんにも入会をお願いします。今まで古代史関係では、会費制の会は作らなかったんですが、よろしくお願いします！

「資治通鑑」第 133 巻 471 年～475 年、2020-0607
日本では雄略天皇時代。埼玉県稲荷山古墳の鉄剣銘は 471 年、475 年には百済の王都が高句麗に攻められて、一度滅亡する年。この頃も宋は内乱続きで、次第に弱体化し、その間隙を突いて高句麗は南に侵攻。

「資治通鑑」第 132 巻、467 年～470 年。　2020-0602
翻訳完了。南朝宋の内乱は平定されたものの、北魏の圧力は強まり、北魏に滅ぼされた燕の王族・慕容白曜将軍が山東半島の付け根の歴城などを攻め、ついに陥落。宋の領土は大きく削られ、北魏は絶頂期を迎える。
この頃倭国の雄略天皇も東西に勢力を拡大し、翌 471 年の稲荷山鉄剣の年代を迎える。朝鮮半島では高句麗と、倭国・百済がせめぎ合う。
ただこの間、倭国から宋に向かう山東半島からの沿岸部は、戦乱で荒れていて、海路も決して安全ではなかったはず。こうした事情を日本の古墳時代研究者はもっと知らなければならない。岡山では両宮山古墳築造の時代ではないだろうか。

「資治通鑑」第 131 巻 466 年 2020-0529
翻訳完了。ほぼ 1 年かかって南朝宋の内乱が収束するが、北部の 3 州を結局北魏に取られて、宋は滅亡に向かう。丁度この頃、倭国の倭王武、雄略天皇は朝鮮半島の新羅、百済、高句麗とのすさまじい利権あらそいの渦中にあり、宋の支援を得たいと願うが。
この翻訳ででは、当時の倭国を含めた国々が「将軍号」をいかに欲しがり、「開府」の権利を得たいと思ったかがよくわかる。府を開く権利とは、すなわち幕府を開く権利と言うことで、鎌倉幕府、室町幕府、江戸幕府もすべてこの流れであり、この時代を知ることが日本を知ることにもなる。

「資治通鑑」第 130 巻完全翻訳、465 年。2020-0521
宋の皇帝が暴虐で、前廃帝の時代。尋陽で子勲を擁立しようとする勢力が挙兵した矢先、首都ではクーデターが成功し、前廃帝が 17 歳で殺され、明帝が立つ。一方尋陽の勢力は、先を越されて挙兵を止められず、このあと国を二分する内乱状態に陥る。
戦前に翻訳された国会図書館の画像を参考に、翻訳を進めているが、やはり随分原本の文字がいまのネットにある原文と違うので、一応その違いを表示し、自分の判断でよりふさわしい物を取る。だが是で分かるのは、手で書き写すというのは、いかに間違いか多いかだ。だから邪馬台国論争や日本書紀編纂時だって、随分苦労しただろうと言うことがわかる。また漢字の訓読みも、こうやって新たな訳を作ったのだなあと納得できる。
驚いたのは、国会図書館のデータが２Ｐ分スキャンが飛んでいること。まあ人間だから、間違うよな。飛んでいるよと教えてあげようかな。

「資治通鑑」１２８巻は４５４年から４５８年の 2020-0513
南朝宋の時代。新帝が立つが、あいかわらず内戦状態が続く。この頃から皇帝が立てば、兄弟は皆殺しみたいな風潮が出てくる。そして自分の子たちだけをあちこちの王にするものだから、今度はすぐにまた殺しあうことになる。
最近それぞれの王の年を調べて驚くのは、今で言えば若造だったり、あるいは子供だったりする。残酷な王はやはり、精力有り余る１０代が多いかな。僕の年なら確実に長老だね。

126 巻完訳　2020-0505
今日は一日で「資治通鑑」126 巻を完訳できた。13160 文字。西暦 451 年と 452 年の部分。倭王済の使節団が宋の都建康に赴いたのが 451 年の 7 月。451 年の正月、北魏は宋の都の揚子江の対岸まで押し寄せていたが、食糧不足で撤退。
その後北魏では皇帝が宦官に殺され、また南宋でも皇太子の乱行が明らかになり、そのすぐあとにまだ殺されることになる。
1

１２５巻　2020-0504
「資治通鑑」の翻訳は第２ステージに入った。約１週間かけて４４７年から４５０年の古墳時代中期、允恭天皇時代の宋紀１２５巻を、「続国訳漢文大成. 経子史部 第 7 巻」と照合して修正した。１９３２刊行の全訳だが、いまは国立国会図書館にあり、画像を見ることが出来る。ありがたい時代だな。ネットにある原文とこの翻訳に遣われた原文は、もちろん結構差異がある。
これから週に２巻のペーズで修正を加えるので、いま翻訳した２６巻を約３ヶ月でやれるかな。なんせ僕は文法てのが苦手、というよりも嫌いで、それは法律が嫌いと言うのと一緒だ。大学時代僕のことを「無政府主義」と呼んだ奴がいるが、まさに自由人であることを目指してきた。
だが、実際にお金を稼ぐ商売人をやって、自由であることは実に難しく、逆にお金があることが自由をえる最短手段であったりする。大きく稼いだ瞬間は、だから随分傍若無人だったことも間々あるが、それは分かった上でやっていたかもね。

資治通鑑　2020-0413
「資治通鑑」は「宋書」を参考に編纂されている。「宋書」にはいわゆる「倭の五王」の朝貢記事が載っているが、これは「本紀」部分や皇帝の日記である「起居注」にあるらしい。しかし「資治通鑑」ではそこまでは載っていない。一方「宋書倭国伝」には倭の五王の朝貢記事がある。
この時代に宋国内がどんな状況にあったかは、「資治通鑑」の編年体記述が参考になる。倭の五王が宋から貰おうとした将軍号なども、頻繁に出てくるから、どんな意味があるのかも想像が付く。
また「日本書紀」の記述にはストレートに倭の五王は出てこないが、呉との通行は雄略天皇時代には出てくる。この３つをまずは簡単に見比べてみたい。なお「日本書紀」では４５７年を雄略天皇元年に当てているが、実際には４６２年に安康天皇が暗殺されているから元年は４６３年であり、この年に吉備の反乱伝承が記載されている。また日本書紀にもこの時代に対応する様々な記事が散見される。そこでいくつか代表的な年号について関係を述べてみたい。

資治通鑑 142 巻　2020-0409
並是五省案黄
資治通鑑 142 巻 499 年、皇帝が遊びほうけて、夜中から朝まで宴会で、朝見が無くなり、月のうち何日もどこに居るか分からず、宦官はこっそり豪華な食べ物を持ち帰り～
　それで黄色がどうしたのかと思ったが、要するに上がアホだと、下の 5 省の官僚は法案を黄色になるまでほっとくてわけだ。

中国「資治通鑑」の仮翻訳公開　2020-0408
一昨年 8 月 26 日から取り組んだ、中国「資治通鑑」の全訳。一応当初の予定の１１９巻～１４１巻（420 年～498 年）を公開。
吉備古代史小説「勾玉の首飾り」の書き直しのために、日本の古墳時代の雄略天皇の時代を中心に翻訳を開始し、前後に広げて、南朝宋の始まった「宋記」の始めから南朝斉の終わりくらいまで。
約 41 万字余りか、大体 1 ヶ月に 1 巻位しかできなかったが、コロナで自宅にいることも多く、最近随分進んだ。
日本書紀の記述に対して、同時代の中国には膨大な記録があるが、「資治通鑑」も三国志当たりは随分たくさん翻訳があるものの、戦前翻訳されたとはいえ、今では翻訳を手にいれられなくなっている。
一昨年ひょんなことから、pdf ファイルの検索性の高いのに気がつき、平成 4 年に連載された自分の小説をスキャンして pdf にしたところ、ほとんど完全にワードファイルに変換できた。そこで今度はホームページから中国語の「資治通鑑」のテキストを取ってワードに貼り付けて翻訳開始。
有り難いのは、ペーストして検索を掛けると、どんな複雑な感じでもたちどころに日本語訳が出てくる、検索エンジンの漢和辞典化の威力。また中国語の熟語は本当に凄い量だが、検索すると中国語の辞書も出てくる。
幸い僕は高校時代漢文も好きだったが、第 2 外国語で中国語も取った。だから抵抗は少ない。最も 48 年に及ぶ古代史の知識は膨大で、この知識無くしては翻訳することは不可能だろう。
しかし一方で、僕は文法くらい嫌いな物はないほど苦手。だから漢文の正確な訳を作るだけの能力はま

た持ち合わせていない。しかしなおかつ、この翻訳が、日本の古墳時代研究に役立つと考え、公開に踏み切った。正確さには欠けるのでご容赦いただきたい。また転載には一定の転載ルールに従って、いただきたい。（岡將男）